

常在山 藻原寺

No.347
平成26年1月

日蓮が清澄を發し布教の途中、長南の笠森寺へ来た時、茂原の領主斎藤遠江守兼綱は自邸に案内し、日蓮の教えを受けて帰依した。兼綱が建てた仏堂に日蓮は榎本庵と名付けた。兼綱は自邸を日蓮に喜捨し自らも日朝と名を改め日蓮宗の普及に努めた。これが藻原寺のある所である。

兼綱は遠江の国の守であったが、平氏と組んだ罪で鎌倉將軍により茂原の地に流されてきた人である。

日蓮が身延山に久遠寺を開くと、日向に妙光寺と久遠寺を兼務させ約30年間両寺を守らせた。それ故に今でも藻原寺を東身延と称している。

常楽山が常在山と山号を変えたのは、第3代の住職日秀の時である後醍醐天皇の御代、日秀は皇居に参内し、天皇の

御病平癒の加持をしたことにより、天皇より「常在靈山」の頼号を賜り律師の称号を授けられてからという。

妙光寺を藻原寺と称するようになったのは、天正19年(1591)徳川家康の朱印状に、藻原寺30石と書かれていたことから始まった。

元禄時代と思われる鳥瞰図をみると、藻原寺は、祖師堂と本堂が建ち並び互に回廊で結ばれている。惣門から山門に至る山道の両側には沢山の坊が建ち並び、山門は楼門祖師堂の裏に五重の塔があり、境内には鐘楼、太鼓堂、経堂その他多くの堂が建っている。



▲藻原寺鳥瞰図

明治24年(1891)発行の茂原町誌には、五重塔建立には、五重塔建立は元禄元年(1688) 本堂新築竣工が元禄2年、丈六の石仏(市指定文化財) 建立は元禄4年(1691)と書かれている。

元禄以後の記録では、正徳5年(1715) 祖師堂落成とある。現在の祖師堂は、天保13年(1842)に改築された。それは、向拝彫刻の竜三態(市指定文化財)の2代目波の伊八の年譜に、天保13年藻原寺改築とあるからである。

これかみると、天保の改築から現在まで171年経過している。この間、度重なる改修工事が行われ、昭和の後期には屋根瓦の葺き替え工事も行われた。

現在の山門は竜宮造りでコンクリートできている。昭和7年(一九三二) 霊山貫主が入山し、翌8年に山門は完成している。御題目初唱の寺といわれる東身延本山藻原寺は、日蓮宗の名刺である。



▲藻原寺祖師堂 (大堂)

茂原市文化財審議会委員

佐藤 信夫

文芸コーナー

パジャマ

時女 礼子

内科入院患者で一番若い女性と言われ笑ってしまつた

五十歳前ではあつたが

若いと言われくすぐつたかつた

私は年がいもなくパジャマの柄が

実ににぎやかだつた

クマ柄、キューピー柄に

カラフルな花柄等を

好んで着ていた

病室の皆の目が点になつた

そして近づいて来た

「可愛いね」

孫でも見るように

私の左袖をそつとさすつた

クマが沢山プリントされていたからだ

とても穏やかで優しい笑顔だつた

私は病人ではあるけれど

夢を運んだかもしれないと

嬉しくなつた

その後増々ビエロみたいなパジャマが

多くなつていった

◎選評 斎藤正敏

入院患者で一番若い女性。五十歳前では有り得ることですね。周囲は老人ばかり。子供や孫をみる視線が集中します。舞い降りた天使をみるまなごしはどれも優しい笑顔です。

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。

●投稿は楷書でお願いします。

※俳句、短歌、川柳の原稿送付先

〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所秘書広報課宛「文芸コーナー」と朱書きしてください。